舌に発生した benign symmetric lipomatosis の1例

金川 昭啓

A case of benign symmetric lipomatosis of the tongue

Akihiro Kanekawa

Abstract: A benign symmetric lipomatosis located within the tongue is rarely reported in the literature. Presented herein is the case of 67-year-old man with this bilateral lesion on the tongue. Surgical excision was performed, and no recurrence was observed for 2 years since this operation.

Key words: Benign symmetric lipomatosis (良性対称性脂肪腫症), Infiltrating lipoma (浸潤性脂肪腫).

はじめに

Benign symmetric lipomatosis¹⁾は、頸部に好発する疾患で舌に生じることは非常にまれである。今回、われわれは、67歳男性の左右舌縁部に発生した benign symmetric lipomatosis の1例を経験したので、その概要を報告する。

症 例

患 者：67歳 男性。

初 診：昭和61年12月■日。

主 訴：両側舌縁部の無痛性腫瘍。

既往歴：2年前より高血圧症のため通院加療中。

家族歴：特記事項なし。

現病歴：昭和61年11月頃から左側舌縁部の腫瘍を自覚するも無痛性のため放置していたが、舌の違和感を自覚するようになり当科を受診した。

全身所見：体格、栄養共に良好で、特記すべき事項はない。

口腔内所見：左側舌縁部前方2/3から舌下部にかけて、大きさ小豆大から大豆大の数個の腫瘍からなる多発性結節状腫瘍を認める(写真1)。その表面粘膜は、や

写真1 初診時の口腔内写真

や帯黄色の色調を示し、弾性軟で圧痛はなく、周囲組織との境界は不明瞭であった。右側では、舌縁部中央に米粒大、帯黄色を呈する境界不明瞭な腫瘍を認めた。腫瘍による舌の運動障害は認めなかった。

臨床診断：舌脂肪腫の疑い。

処置および経過：昭和61年12月■日、局麻下に腫瘍摘出術を施行した。腫瘍は被膜を有さず、筋層へ浸潤し周囲組織との境界は不明瞭であった(写真2)。

摘出物所見：摘出物は左右共に被膜に被包されておらず、左側腫瘍の大きさは20×20×10mmの腫瘍と2つの小腫瘍を切除摘出し(写真3)、右側腫瘍は30×20×10mmの大きさであった(写真4)。断面は帯黄色色調を示し、壊死、出血などは認めなかった。

病理組織所見：腫瘍内には、成熟した脂肪細胞が分葉状に増殖するとともに、腫瘍周囲には被膜の形成はなく、周囲の筋層内へびまん性に浸潤していた(写真5)。

病理組織診断：脂肪腫症 (benign symmetric lipomatosis)。

山口県立中央病院歯科口腔外科

(主任：上村俊介)

Department of Oral and Maxillofacial Surgery,
Yamaguchi Prefectural Central Hospital (Chief:
Shunsuke Uemura)

受付日：平成元年1月17日

写真 2 手術時の写真

写真 4 右側舌部からの摘出物

写真 3 左側舌部からの摘出物

写真 5 病理組織写真(H-E 染色, 100倍)

考 察

脂肪腫は、間葉系腫瘍に属し、結合組織を発生母地とする良性腫瘍の中で最も発生頻度の高い疾患であり、好発年齢は60歳代で、発生部位はあらゆる部位の脂肪組織が発生母地となる^{1,2)}。本症の報告例は体幹、四肢に発生した症例がほとんどで、口腔領域における発生頻度は低いといわれている²⁾。その臨床症状は、多くは成人の皮下に生じ、数 cm 径の黄色の軟らかい球状ないしは分葉状の腫瘤を形成する。組織学的に脂肪腫は成熟脂肪細胞からなり、小葉構造がやや不規則性を示す以外、正常の脂肪組織と区別がつかない。しかし、一部で粘液性変化を示したり、梗塞、壊死、石灰化などを伴うこともある。脂肪腫は、通常薄い被膜を有するが、被膜を有しないものや全身に多発する場合、これを脂肪腫症と呼ぶ¹⁾。さらに骨格筋内に生じ被膜を有せず筋線維間に浸潤性に発育するものを浸潤性脂肪腫または筋肉内脂肪腫と分類している¹⁾。口腔領域での脂肪腫³⁻⁴⁾、浸潤性脂肪腫^{5,6)}および筋肉内脂肪腫⁷⁾の報告例は少ない。

興味深いことに本邦において舌に発生した脂肪腫もしくは脂肪腫症は、本邦の過去の症例を集計した吉村ら⁸⁾

の報告をみると舌に両側性に発生している症例が多い。こうした両側性に発症した脂肪腫症を *benign symmetric lipomatosis*⁸⁻¹⁰⁾と呼んでいる。小川ら¹⁰⁾は、脂肪腫症と脂肪腫の病理学的鑑別点を報告しているが、肉眼的所見での鑑別点は腫瘤の局在が脂肪腫症では左右対称性であるとしているが、必ずしもそうではないことから¹⁾これによる鑑別は困難である。また、組織学的には、脂肪腫と脂肪腫症の脂肪組織を鑑別することができず、腫瘤内既存組織の有無や周囲との境界といった手術操作により影響を受ける因子を鑑別点としている。したがって、実際の摘出標本では脂肪腫と脂肪腫症を病理学的に鑑別することが時として困難と考えられる。さらに、脂肪腫症と浸潤性脂肪腫との鑑別になると共に周囲組織との境界は不明瞭であることから診断はさらに困難となる。Enzinger & Weiss¹⁾は、その著書 *Soft tissue tumors*の中で *benign lipomatous tumors* について詳しく述べているが、この病変を5つに分類し、脂肪腫、浸潤性脂肪腫、*benign symmetric lipomatosis*を別々に分類しているものの、その鑑別については、推測の域にあるものが多く、実際にはあまり重大なことではないとして鑑別診断については詳述していない。こうした分類基準の曖昧さから、舌に両側性に発生した脂肪腫^{11,12)}もしくは浸

潤性脂肪腫¹³⁾と報告された中にも benign symmetric lipomatosis の症例があることも考えられる。こうしたことから、舌における benign symmetric lipomatosis の発生頻度は実際よりも高い可能性もある。

Benign symmetric lipomatosis は、口腔領域に関連した部位では頸部および頬部¹⁾に好発し、まれに舌⁸⁻¹⁰⁾に発症するが、左右対称性に発症することから、局所的な病因は考えにくい。脂肪代謝異常と組織内沈着の問題であろうが、過剰のアルコール摂取や肝疾患、糖尿病、耐糖能不全、高尿酸血症、高中性脂肪血症の患者に多いといわれるが、明らかな脂肪代謝の異常はないとされ、その病因は不明である¹⁾。しかしながら、左右対称性に発症するということは、神経系の関与も考えられるが、そうした推察を裏付けるように交感神経支配の損傷の結果から発症するという報告¹⁴⁾もあり興味深い。

治療は、外科的切除もしくは摘出が基本となるが本疾患が被膜を有さず、周囲組織との境界が不明瞭であるため再発する傾向がみられるという。われわれの症例は、術後2年経過しているが現在のところ再発はみられていない。

結 語

Benign symmetric lipomatosis, 脂肪腫, 脂肪腫症, 浸潤性脂肪腫との鑑別について若干の考察を試みた。これらの鑑別は、その分類基準が曖昧で、過去の舌に両側性に発症した脂肪腫もしくは浸潤性脂肪腫の報告例の中には benign symmetric lipomatosis と診断可能な症例があるのではないかと考えられた。

引 用 文 献

1) Enzinger, F.M. and Weiss, S.W.: Soft tissue

tumors. Mosby Co, St Louis, 1983, p 199-241.

- 2) Hatziotis, J. Ch.: Lipoma of the oral cavity. Oral Surg 31: 511-524 1971.
- 3) 松江仁毅, 西村忠郎, 他: 舌脂肪腫の一症例. 耳鼻臨床 75: 1389-1393 1982.
- 4) 高久 暹, 小沢重雄, 他: 下顎角部領域に生じた脂肪腫の2例. 日口外誌 32: 631-637 1986.
- 5) Garvaglia, J., Gnepp, D.R., et al.: Intramuscular (infiltrating) lipoma of the tongue. Oral Surg 63: 348-350 1987.
- 6) Scherl M.P., Som, P.M., et al.: Recurrent infiltrating lipoma of the head and neck. Arch Otolaryngol Head Neck Surg 112: 1210-1212 1986.
- 7) 坂 宗尚, 白砂兼光, 他: 舌に発生した筋肉内脂肪腫. 日口外誌 34: 1433-1436 1988.
- 8) 吉村裕美子, 宮川 明, 他: Benign symmetrical lipomatosis により巨舌症を呈した1症例. 日口外誌 34: 1061-1065 1988.
- 9) Stephen R.: Benign symmetric lipomatosis. Arch Dermatol 115: 94-95 1979.
- 10) 小川昌子, 中村仁昭, 他: 舌に発症した benign symmetric lipomatosis の1例. 日口外誌 32: 1030-1033 1986.
- 11) 青木紀昭, 遠藤盛孝, 他: 舌両側縁に認められた脂肪腫の1例. 日口外誌 31: 858-862 1985.
- 12) Pisanty, S.: Bilateral lipomas of the tongue. Oral Surg 42: 451-453 1976.
- 13) 中山康弘, 西嶋克己, 他: 舌両側性に発生した浸潤性脂肪腫の一例. 日口外誌 32: 1068-1073 1986.
- 14) Kodish, M.E., Alsever, R.N., et al.: Benign symmetric lipomatosis: Functional sympathetic denervation of adipose tissue and possible hypertrophy of brown fat. Metabolism 23: 937-941 1974.